

平成20年度
医学部進学を目指す高校生を対象とした
事 業 報 告 書

青 森 県

医学部進学を志望する高校生を対象とした事業の概要について

青森県（健康福祉部医療業務課・教育庁学校教育課）では深刻な医師不足の解消のため、「良医」を育む地域づくりに向けて様々な取組を行っており、その中で、医師を目指す高校生の段階の施策として、平成 17 年度から県内高校生を対象とした「医療施設見学会」や「職業ガイダンス」を実施してきたところである。

19 年度からは、「医学部入学促進対策事業」として、高校生を対象とした事業を充実させるため、これまで行ってきた医療施設見学会・職業ガイダンスの一層の充実、ホームページ「応援します！未来のドクター～夢チャレあおもり～」の立ち上げ、地元弘前大学医学部見学会での県職員による説明も行っている。

また、教育庁では、難関である医学部受験突破のために 19 年度初めて「夢実現チャレンジプラン～実力養成セミナー～」において医学科コースを設置した。

20 年度からは、実力養成セミナーに代わり、「医師を志す高校生のためのメディカル・サポート推進事業」をスタートさせ、学習プログラムの充実を図ることとしている。

なお、平成 21 年度青森県内高校出身の医学部医学科現役合格者数はのべ 44 人（平成 21 年 3 月 25 日現在）となっており、その合格者のほとんどは高校時代に本事業のいずれかに参加しており、本事業が一定の効果을上げていていると考えられる。

（医療施設見学会）

県内 4 地域において 2 日間で中核病院とへき地診療所等の両方を見学できるプログラムを設定。全学年を対象とし、延べ 130 人が参加。初めて地域医療に触れたという都市部の高校生も多く、「実際、都市部とへき地等の両医療機関を見学し、大変勉強になった。よい経験となった。」という声が多く聞かれ、殆ど全ての生徒が「医師になりたいという思いを強くした。」と述べている。（詳細は P2～）

（職業ガイダンス（現役医師講演会））

県内を 3 ブロックに分け、青森・八戸会場は県が、弘前会場は地域の拠点校である弘前高校が主体となって実施。1, 2 学年を対象とし、延べ 300 人以上が参加。国内外で活躍している現役医師の講演、県職員による県内の医療状況・行政説明などを行った。特に現役医師による講演は全会場で大変好評で、将来医師を目指すほとんどの生徒がより医師になりたいという思いを強くした。」と述べている。（詳細は P16～）

（医師を志す高校生のためのメディカル・サポート推進事業）

教育庁において、平成 20 年度から実施。県内 3 つの拠点校が中心となり、早い段階から生徒の意識啓発を継続的に行い、医学科進学を目指す高校生の実力養成と教員の指導力向上等を図るため、県外から大手予備校の講師を招聘し、独自のプログラムを策定・レベルアップを図った。

なお、平成 17 年度から 19 年度までは「夢実現チャレンジセミナー」を行い、19 年度には、医学科コースを設置したところである。県内の 300 人以上の高校生が受講。同じ志を持つ仲間が一堂に会し、切磋琢磨の中にも互いを理解し交流を深め、より一層高い志を抱いた様子が見えられた。（詳細は P20～）

医療施設見学会

平成20年度医療施設見学会開催要項

1 目 的

医師の職業的な魅力や地域医療に対する理解を深めるとともに、医師に求められる高い倫理観や使命感を学ばせることを目的に医療施設見学会を行い、気概と目的意識を持った医学科志願者を養成し、県内出身医学部医学科入学者数の増加を図る。

2 主 催

青森県（教育庁学校教育課、健康福祉部医療薬務課）

3 期 日

平成20年8月19日（火）～20日（水） のうち2日間〔宿泊なし〕

4 参 加 者

医学部医学科を志望する県内高校生（1年生～3年生）

5 地域と見学医療機関

1日目は最新設備を備えた公立病院等、2日目はへき地医療機関又はへき地を抱える医療機関を見学する。（八戸・上十三地域は1日目にへき地医療機関見学）

保健医療圏	月 日	医療機関	時 間
青森地域保健医療圏	8/19(火)	青森市民病院	15:00～
	8/20(水)	中泊町国保小泊診療所	13:00～
津軽・西北五地域保健医療圏	8/19(火)	西北中央病院	14:00～
	8/20(水)	外ヶ浜中央病院	13:30～
八戸・上十三地域保健医療圏	8/19(火)	三戸中央病院	13:00～
	8/20(水)	十和田市立中央病院	14:00～
下北地域保健医療圏	8/19(火)	むつ総合病院	14:00～
	8/20(水)	川内病院	13:00～

* のべ130人が参加

1 青森地域保健医療圏
施設見学会の様子



参加生徒の声 青森市民病院

<p>畑山先生の講話が大変良かったです。医師という仕事はとてもやりがいのある仕事だということが良く伝わり、医師へのあこがれが一層強くなりました。病院見学では、実際の手術現場を見ることができ、とても貴重な体験をすることができて良かったです。</p>
<p>市民病院では、医療の最先端の機器が揃っていてスタッフの人数もある程度は確保できていたので、質が良い治療ができていると感じました。それでも、東京などに比べるとまだまだ充実していないと聞き、医師不足の深刻さがわかりました。</p>
<p>最新の医療設備のある市民病院を見学して、やはり将来は医師になりたいと決意が固まりました。</p>
<p>スライドについて、動画などを使ってわかりやすくしてもらったので、次回も今日みたいにしていいただければいいです。</p>
<p>畑山医師の説明はとてもわかりやすく、医師の大変さ、喜びなど話す口調からよく伝わってきました。私も患者さん第一として考えられる医師になりたいです。</p>
<p>やはり医師という仕事はとてもやりがいのあるものだと感じました。始めて手術室に入ってみて、自分の中ではとても緊迫した状況だというイメージがあったが、一つ一つ冷静に対処していて、判断力が問われる場なのだと実感しました。勉強だけでなく人間性もつけていきたいです。</p>
<p>私は医師になりたいと思っていても、たくさんの不安を抱えていました。でも、今日畑山先生の話聞いて勇気づけられました。それから貴重な体験もできて本当に良かったです。</p>
<p>思っていたよりも色々見ることができ、充実していて良かったです。地方の医師数が減っている現状は多少理解できましたが、やはり都市部にも興味はあります。</p>
<p>自分の医師になるという目標がよりはっきりした。是非、医師になって青森で働きたい。</p>
<p>様々なことを学ぶことができ良かったです。最近では、救急処置としては、人工呼吸よりも心臓マッサージの方が効果的であることがわかった。自分のためになったことは、畑山先生が猛勉強して医学部に入ったこと。自分も医学部に入って医師になれる様がんばります。</p>
<p>スクリーンの映像やいろいろな部屋を見て、病院の中がどうなっていて、どんな気持ちで医師が働いているのかわかることができました。また、奉仕の精神など強い心で望んでいることを知り、すごいと思います。</p>

中泊町国保小泊診療所

<p>診療所が思っていたよりも新しく、大きかったことにまず驚きました。1日90人も患者を医師1人で対応しているのは大変だと思ったが、メリットもあることを知ることができました。</p> <p>関連施設に高齢者のための施設があり、高齢者医療が進んで来ていると感じました。</p>
<p>診療所の医師と都市部の医師の役割の違いがはっきりと見えました。</p>
<p>学生や医師の話聞いて質問できたのが良かった。へき地医療にすごく良い所がたくさんあるとわかった。</p> <p>隣の老人ホームも見学できて良かった。</p>
<p>私がイメージしていたへき地の医療現場とは大きく異なっていて、患者も医師も生き生きとしているという印象を受けました。</p> <p>医学生や医師に質問できとても充実していました。</p>
<p>自治医大出身医師と自治医大生の話聞くことができ、とてもためになりました。診療をしている様子も見学して、医師への思いが強まった様な気がします。</p>
<p>小泊診療所を訪問し、今まで見られなかった状況を見られたと思います。体力や精神力がないとできないことだし、そういう地域の現状を少しだけ理解できました。</p>
<p>へき地なので、のんびりとした感じかと思っていましたが、医療施設が充実していて有意義だった。自治医科大学についてのことや大学生活についても聞くことができ充実していた。</p> <p>実際の診療も見ることができ、とても良い経験となった。</p>
<p>先生と医学生の話聞いて面白く、とても参考になりました。都市と地方の差はあんまりないのかなという印象を受けました。でも、それぞれの特徴を知ることができたので良かったです。</p>
<p>思ったより設備が色々あることに驚きました。</p> <p>また、先生のお話で医師になることがいかに難しいか改めてわかりました。</p>
<p>米田先生や藤田さんなどから地域医療の素晴らしさを教えてもらうことができた。</p> <p>ありがとうございました。</p>

2 津軽・西北五地域保健医療圏
施設見学会の様子



参加生徒の声 西北中央病院

かねてから希望していた産婦人科病棟を見学して、新生児に触れたり、医師のお話を聞いたりと普段できないことを体験でき、すごく参考になりました。今まで、見たことがなかった医療機器も見ることができて良かったです。

医療は日々進歩しているということを実感しました。小さな命を抱いたとき、改めて「生命ってすごいな」と感じました。

エコーで色々臓器を見ました。心臓はやはりすごく、びっくりしました。エコーで赤ちゃんを見てみたいです。他のコースも見てみたいと思いました。今日はありがとうございました。

妊婦さんのおなかの中を見せてもらって、中でしきりに手足を動かす赤ちゃんをととても不思議に思いました。まだ、体のつくりは十分でなくて、皮膚はゼラチン状だときいて驚いた。今回初めて産婦人科の見学ができて本当に良かった。

整形外科の手術を見学しました。生まれて初めて実際の手術を目の前で見ることができ、衛生管理の大切さや命を扱うということの重大さを実感しました。

麻酔科見学をしたが、麻酔科のイメージが変わった。麻酔科は手術の際、全体をコントロールする役目だと聞き驚きました。また、医学の哲学的な部分にも触れることができ、医療の深い所も知ることができました。

検査の裏側を一部でも見ることができ、参考になった。また、院長さんをはじめとする方々のお話を聞き、青森県の医療状況を詳しく聞くことができ、自分の進路を決める上でとても参考になる内容の見学ができた。

普段映像などでしか見られない手術風景を見て、厳粛な気持ちになった。実際患者と立ち会って命の大切さを身を持って知った。医学生でもないのに、手術に立ち会うことを許可してくれた患者さんに感謝するとともに、貴重な体験をさせていただいた医師の方々にも感謝しています。

先生方の輝かしい目を見ることができてとてもよかった。

心臓カテーテルの重要性を知った。また心臓に関しては、最先端の医療が進んでいる様で、それを見ることができて良かったです。

病院の規模を縮小して新たに建てるという話を聞いて、医師不足の現状を知った。また、産婦人科の見学では超音波でおなかの中にいる赤ちゃんを見て、画像が鮮明なことに驚いた。新生児は小さくても、一人前の人間として生きているのを見て感動した。普段はできないような経験を通じ、産婦人科医になるという気持ちが高まった。

外ヶ浜中央病院

前日とはまた雰囲気が違い、病院全体が家族の様に思えました。院長先生のお話はすごく参考になりました。今自分は行き詰まっていたので、あらためて「医師になる」という思いを感じる事ができました。今からでも遅くはないと勇気づけられました。医師になるとしても色々な道があってとても驚きました。

地域医療の現場をすごく近くで見れたような気がしました。総合医としての魅力を感じる事ができました。私は専門医になりたいと思っていましたが、専門医だからといって人間性が欠けてもいいということにはならないし、総合医としての力もつけなければならないと思いました。

初めて胃カメラを見てやっている人が苦しそうだった。見ていて自分は絶対おとなしくしていられないなと思った。たんぼぼ(併設の介護老人保健施設)にいる方々の8割が認知症だと聞いたけど、みんな元気にお話したり、リハビリをされていて少し驚いた。介護士の方々もみんな笑顔で優しく話を聞いていてすごくあこがれを持った。

青森工業高校出身で、卒後別の道で働いていたにもかかわらず、もう一度医学部へ入り直した先生の合格体験を聞くことができ、多少自信をなくしかけていた自分にもまだ医学部へのチャンスがあるのではないかと思う事ができました。

地域医療の現場を見学でき、今後このような地域の病院で働くかどうかの参考になりました。今回初めて見る事ができた内視鏡には驚きました。医療機器の進歩が現場の医療を助ける事ができるのだと感じました。

へき地病院の医師数だけでなく看護師数も中核病院に比べてかなり不足していることがわかりました。ここまで差があるとは思わなかったので、自分も将来は医療に携わり、地域の病院の役に立ちたい。

1日目と違う地域医療は専門医を必要とするのではなく、患者の立場保健福祉などを必要とする医療であることがわかった。今まで専門医が第一に必要と思っていたのですが、専門医のみでは医療が成り立たない現場を見て分かりました。また、病を治すだけでなく、予防時点の生活面でもこれからは重要とされることを知った。

現在注目されている地域医療は何か、そして包括ケアという新しい言葉の意味を知ることができて良かった。私はここに来る前から総合医に興味を持っていましたが、先生の話聞いて最後に自分が専門・総合どちらの道に行くのかは自分の気持ち次第ということが分かって良かったです。

今まで医師体験や施設見学へ行っても、ねたきりの患者さんや老人保健施設にいるお年寄りを実際見たのは初めてで強い衝撃を受けました。また、秋山院長が楽しそうに内視鏡やCTを使っている姿を見て、勉強すること、そしてそれは結果として自分に返ってくることの喜びを知った様な気がします。「努力すれば必ず合格できる」の言葉を信じ、良医を目指して頑張ろうと思いました。

院長のお話は、これから受験に向かう私にとって聞き逃すことを絶対にしたくないという程の強い力を感じる事ができ、絶対に諦めないという気持ちをあらためて思い直す事ができました。次の見学会でも、是非先生の話を通して来る日人達に聞かせる機会を持たせてあげて欲しいです。

内視鏡の実験台になって下さった人が本当につらそうで気の毒でしたが、とても勉強になりました。ありがとうございます。

3 上十三・八戸地域保健医療圏
施設見学会の様子



上十三・八戸地域：十和田市立中央病院



上十三・八戸地域：三戸中央病院

参加生徒の声

十和田市立中央病院

近代の病院としてのあらたな試み(地域医療連携医療、トモセラピーなど)について知ることができ良かった。また、手術着を着て、手術室内を見学というのは今までにない体験で素直に嬉しかった。これまでの医療施設見学や医師体験以上の体験ができて有意義だった。

トモセラピーを扱っている病院が全国でも10しかないと聞いて驚きました。あと、心電図やエコーをしているところを実際に見ることができ良かったです。

実際に医療の現場を見学することでイメージをつかむことができよかった。研修医の方々は全員青森の人かと思ったら、いろいろな都道府県から来ていて驚いた。貴重なお話を聞くことができ良かったです。

小さい頃から身近にあった中央病院の見学でしたが、いざ中に入ってみると、初めて見るものや様々な設備に驚かされました。研修医の先輩方の貴重なお話しも聞かせていただき、大変有意義な時間を過ごせたと思います。

医師や看護師だけでなく、たくさんの人の支えがあって病院はなりたっていることが初めて分かりました。

今日はドクターの格好をできただけでかなり満足だったのに、手術室まで見られてとても嬉しかったです。とにかく、十和田市立中央病院は構造からして素晴らしくて驚きました。とてもきれいなところで、将来ここで働きたいと思いました。あと、院長先生、医師の方々、研修医の方々、いろいろとどうもありがとうございました。

十和田市に住んでいながら一度も来たことがなかった中央病院。以前と比べ建物はもちろん、設備も最新のもののばかりですごいと思いました。医師になりたいという気持ちはとても強いので、これからもめげずに勉強して、青森県の医療に貢献したいです。

自分の知らない病院の姿を見ることで参考になりました。また、実際に働いているお医者さんや、看護師さんの様子も見学して、改めて医療現場で働く人は雰囲気違ってすごいなと思いました。今日の見学会でもっと自分も頑張ろうと思います。

想像していたより内容の濃い見学会ですごく参考になった。私は体が強いという訳ではないので、自分が医師を目指す上でかなりネックになっていたので、話を聞いて勇気が出た。病院では医師以外にも多くの職業があるということが分かった。将来が楽しみになった。

三戸中央病院

病院施設見学を通して医師の仕事を理解するだけでなく、栄養管理士や薬剤師など医療に携わる仕事についても知ることができて良かった。また、医師不足が叫ばれている中でこのようなへき地の病院の実態を知ることができたのが実に有意義だった。特に内科・泌尿器科以外に常勤医師がいないということを知り思うところがあった。

この病院はそれぞれの先生方の意見をまとめて病院を作ったというのが素晴らしいと思いました。この病院を見学したことでいろいろな病院の仕組みがわかり、とてもためになりました。これから、たくさんの努力を積んで医師になれるよう頑張りたいと思います。

医療設備が整っていて驚きました。こんなにいい設備があるのに、医師不足なのは残念な事だと思います。私は将来医師になって、青森県で勤務したいと思うので、もっと勉強を頑張ります。

へき地の病院だと聞いていたので、あまり発達していないイメージがありましたが、MRIなどの医療機器をみてびっくりした。

医師が少ないといくら設備は充実していてももったいないと感じた。最後の医師の方々との話では、改めてコミュニケーション能力、笑顔、人を好きであるということの必要性を感じました。

今回2回目の参加でしたが、本当に新鮮な感じがしました。医師という職業だけでなく、医療を支える看護師を初めとした様々な職業に興味を持ちました。いくら施設が充実していてもその医療を支える人の力があってこそ医療は成り立っていると思いました。

初めて三戸中央病院に来て、医療機器が多くて驚きました。今まで見たこともない機器やその科毎の特徴、治療方法や使用機器などを知ることができて良かったです。こんなに設備の整った病院なのに、医師数が減ったことが残念に思えました。自分も医師になりたいとより強く思うとともに医師がもっと増えて欲しいと思いました。

病院内をたくさん見学できて良かったです。見学の人たちの中には八戸高校だけでなく三本木高校とか八戸東の人も来ていてみなさんの意識が高いのだなあと思いました。

三戸中央病院はへき地にあると聞いていたのですが、思っていたよりも素晴らしい施設で驚きました。この施設は職員の方々の意見を出し合い作られたからこそだと言うことがわかりました。また、先生方のお話を聞くことができ、とても良い経験ができました。

4 下北地域保健医療圏
施設見学会の様子



下北地域：むつ総合病院



下北地域：川内病院

参加生徒の声 むつ総合病院

通院しても普段見ることがない施設を見ることができて感動しました。特に私は検査に使うMRIなどの管理をする施設を見て勉強になりました。コンピューターを使って患者さんの体内を見ていてすごく高度な技術だなと思いました。ますます医師になりたいと思いました。

医師になるためには「思いやりの心」が大切だということを改めて実感しました。1人の患者さんのためにたくさんの方が動いていてとてもびっくりしました。医師が不足しているという事も言っていたので、将来必ず医師になり、むつ病院に勤務したいと思いました。

むつ総合病院は広く、私が普段見たこともない場所をたくさん見学させていただきました。貴重な体験ができ、嬉しく思います。医師だけではなく、多くの人に支えられてこの病院はなり立っているのだなあと思いました。

院長さんのお話がとてもわかりやすかったです。あと、全員に質問をさせていただいたので、嬉しかったです。院内の見学では色々な医療機器を見せてもらったり、普段は絶対に見られない場所を見せてもらいとてもためになりました。

むつ総合病院は広く、私が普段見たこともない場所をたくさん見学させていただきました。貴重な体験ができ、嬉しく思います。医師だけではなく、多くの人に支えられてこの病院は成り立っているのだなあと思いました。

昨年の見学とは違って色々な場所を見学できたので良かった。病院はとても忙しい所だと感じた。また院長の小川さんに、自分の持っている疑問に答えてもらい、解決できた。他にも質問でき、充実した1日だったと思う。

川内病院

医療スタッフの患者さんに接するときの思いやりがとても素晴らしく感じました。私は自分自身の病気そして、家族の死を体験しているので、その中で頑張っている医師の皆さんを見て、私も将来医師として頑張りたいと思います。そして今日の見学は医師として必要な事を学べて良かったです

治療しているところも見られてとても良い経験になりました。患者さんが少ないのもあると思うけれども、患者さんと医師がとても近くに感じられました。それに最新の設備も見ることができたので良かったです。大きい病院も小さな病院もそれぞれ良いところがあると思います。

医師が患者さんと接するところを生で見られたことが嬉しかったです。とても優しく接していたのが印象に残っています。地域と密接に結びついている病院だからこそできる医療だと感じました。大きな病院も小さい病院も素晴らしいと思いました。

国保川内病院は思っていたよりは設備が充実しており、むつ総合病院に劣らぬ人々の温かさがありました。また、地域とも密着しており、大変素晴らしい病院だと思います。今回の見学を通して国保川内病院が下北の、また青森の医療に果たす役割はととても大きいと思いました。

今日の見学は機器を見るだけではなく実際患者を医師の方と回診した。患者を昨日よりも近い存在で感じ、医師の仕事の難しさをした。幅広い年齢層の人々とうまくコミュニケーションをとる医師はすごいと思った。

5 全体を通しての参加生徒の感想

医療現場を見たり、医師の話を聞いたりして、将来像を考える上でとても参考になりました。

将来青森県で働きたいと思うようになった。参加して良かったです。

勉強が思うようにできなくて医師になることをあきらめかけていましたが、実際の医療現場を見て、忘れかけていた気持ちを思い出しました。普段は聞くことのできない医師の生の声を聞いたり、医療がどのくらい進歩しているのか知ることができました。貴重な機会をありがとうございました。また、次のこのような機会があったら参加したいです。

2日間の見学会を通じて、今の青森県がどれだけ医師が不足していて、また、地方にはどのような医師が必要とされているのかがよく分かった。これらのことを念頭に置いて、これからは勉強してしっかりとした医師になるために医学部を合格したいと思う。



現役医師による講演会

平成20年度
医学部進学を目指す高校生を対象とした講演会

1 目的

医師の職業的な魅力や地域医療に対する理解を深めると共に、医師に求められる高い倫理観や使命感を学ばせることを目的に、現役医師による講演を行い、気概と目的意識を持った医学部志願者を養成する。

2 主 催

青森県（健康福祉部医療業務課、教育庁学校教育課）

3 開催日時

(1) 八戸高校会場（三八地域・上十三地域の高校1,2年生）

平成21年3月14日（土） 13:30～

(2) 青森高校会場（東青地域・下北地域の高校1,2年生）

平成21年3月21日（土）15:10～

* 弘前高校会場（津軽・西北五地域）については、平成21年2月21日に弘前中央高校会場にて実施。（主催：弘前高校、講師：弘前大学医学研究科長 佐藤敬氏、弘前大学医学生）「メディカル講演会」(p)

4 内 容

開 会

行政の施策説明（修学資金支援制度等の説明）

現役医師講演

質疑・意見交換

5 講演講師

(1) 八戸高校会場

社団法人地域医療振興協会 沖縄地域医療支援センター長 崎原永作

(2) 青森高校会場

京都大学医学部附属病院 初期診療・救急部助教 山畑佳篤

1 八戸高校会場（三八・上十三地域の高校生）

講演講師：社団法人地域医療振興協会 沖縄地域医療支援センター長 崎原永作先生

崎原先生は、沖縄の離島医療に携わっていらっしゃる方ですが、これまでの経験を通してのやりがいや、エピソードなどをお話してくださいました。

また、沖縄には20の島に1人医師診療所があり・・・言い換えるとドクターコトーが20人いるイメージとのこと。そんな1人で頑張っている医師のためにも、診療だけでなく、ネットワークシステムを導入するなどし、支える仕組みも積極的につくっていると話されていました。

生徒達は先生の熱心に先生のお話に耳を傾け、地域に根ざした医療のすばらしさをひしひしと感じていた様です。

（参加高校生の感想）

- ・ 青森県や日本の医療崩壊が頻繁に叫ばれていることは新聞やテレビでよく分かっていましたが、医師同士が協力してこの危機を乗り越えている具体的な現状は今日初めて知りました。現在、報道では医師のつらさばかりが伝わってきて、医師になりたいと自分では思っているものの不安が大きかったです。でも先生のお話を聞いて、医師の魅力が現実感たっぷりに伝わってきて、医学部や医師への希望が見えました。
- ・ 今回のガイダンスは医師を目指す者としてはもちろん、1人の人間としても学ぶことが多かった様に思えます。講演をしてくださった先生はとても温かい方で、心に残るお話をたくさんしてくださいました。先生のような温かい医師になれるよう努力しようと思いました。



崎原先生の御講演の様子



意見交換時の様子

2 青森高校会場（東青・下北地域の高校生）

講演講師：京都大学医学部附属病院初期診療・救急部 助教 山畑佳篤 先生

山畑先生には昨年度の三本木高校会場に引き続きガイダンス講師としてお越しいただきました。コテコテの（？）関西弁で、とても声が大きく、明るく元気な方です。

生徒にインタビューや挙手をさせながらのスタイルでの講演だったため、会場内は終始楽しそうな雰囲気になりました。

動画や音楽をふんだんに取り入れ、視聴覚的に楽しく、救急の現状についてのお話や、国際救急援助チームの一員として派遣されたときの話、さらにはAEDの話とその方法、実際心臓がどのように動くのかCGやビデオで説明されました。

（参加生徒の感想）

- ・ とても楽しい講演でした。今日のガイダンスを聞いて私も医師を志してみようと思いました。プレゼンも見やすかったです。
- ・ 今日の講演で医療現場の実情がよく分かりました。今まで、医師はつらく緊張状態がずっと続くというイメージが強かったのですが、先生の講演を聞いて少し安心しました。先生は今まで出会った医師の中で一番明るい医師でした。私も将来、先生のような明るい医師になりたいと思いました。絶対医師になって青森県の医療に貢献していきたいです。
- ・ 滑舌と喋り方のトーンが良くてあと関西弁も親近感が湧いて良かったです。聞いている私たちを飽きさせない進め方で、かつ伝えたいことも伝わってくるとても良い講演だと感じました。先生の歌もためになりました。



山畑先生の講演の様子

講演中の生徒達の様子

医師を志す高校生のための
メディカル・サポート推進事業

(青森県教育庁)

医師を志す高校生のためのメディカル・サポート推進事業

「医師を志すためのメディカル・サポート推進事業」は、医師不足の解消に向けて、本県高校生の医学科への入学者増を図るため、県内3つの拠点校が中心となり、早い段階から生徒の意識啓発を継続的に行い、医学科進学を目指す高校生の実力養成と教員の指導力向上等を図るための学習プログラムを実施するものである。

開催場所

県立青森高等学校（東青・下北地域の高校生）

県立弘前高等学校（西北・中南地域の高校生）

県立八戸高等学校（上北・三八地域の高校生）

実施方法

各会場において

1, 2年生を対象とした予備校講師によるセミナー

教員を対象とした指導法ワークショップ

1, 2年生を対象とした小論文集等作成

を実施。

参加した生徒及び教員の感想の一部

（生徒から）

「詳しい説明でわかりやすかった。（国語）」「別解など様々な解答法を学ぶことができたためになった。（数学）」「和訳や熟語の覚え方などコツが分かってためになった。（英語）」「WS（ワークショップ）やケーススタディについて理解できた。（小論）」「医療についての知識が高まった（小論）」

（教員から）

- ・ 「医師を志す生徒」にほぼ限定したものだだったので、内容・レベル共的
確なものであった。
- ・ 教師自身が教材を面白いと思い、生徒に刺激を与えるべきという考え方は
とても参考になった。これから教材を読み込んで実践したい。

ワークショップなどの様子



医師を志す高校生のためのメディカル・サポート推進事業

メディカル講演会

医師を志す高校生のためのメディカル・サポート推進事業
メディカル講演会（弘前高校主催）

メディカル講演会は、メディカル・サポート春セミナー（弘前高校会場）を受講した1，2年生を対象に、平成21年2月21日（土）に県立弘前中央高等学校にて実施しました。

弘前大学医学研究科長（医学部長）佐藤敬先生の御講演後、弘前大学医学部医学科の学生さんとの懇談が行われました。

佐藤先生からは「医学の道は日々進歩している。それに対応できるような人となれるよう頑張って欲しい。」とエールが送られました。



青森県健康福祉部医療薬務課